

【朝鮮語】

読書案内

■加藤圭木監修、一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール編『日韓のモヤモヤと大学生の私』大月書店2021年

皆さんの先輩である一橋大の学生たちが編纂した本書には、日韓関係を学ぶ学生たちが抱えるモヤモヤ感が率直に語られると同時に、学生自身の目線で出した回答も述べられています。

■岡本有佳・加藤圭木編『だれが日韓「対立」をつくったのか』大月書店 2019 年

「徴用工」問題、「慰安婦」問題などが日韓関係悪化の要因、または契機として語られています。しかし、そもそも問題の根はどこにあるのかを解いた入門書。「徴用工」「慰安婦」「少女像」など、韓国への疑問を解きほぐし、日韓の相互理解と対話へとつなごうとする本です。

■中塚明『これだけは知っておきたい 日本と韓国・朝鮮の歴史』高文研 2002 年

古代から現代までエッセンシャルな事項を選んで、朝鮮の歴史を平易に説いた入門書です。

■糟谷憲一『朝鮮半島を日本が領土とした時代』新日本出版社 2020 年

日本の植民地下の朝鮮で何があったのか。この事実への理解なしに朝鮮民主主義人民共和国や大韓民国への視座を持つことはできないと思います。この時代の歴史を学ぶための本です。

■FFJ ブックレット 1『Q&A 「慰安婦」・強制・性奴隷 —— あなたの疑問に答えます』御茶の水書房 2014 年

■FFJ ブックレット 3『Q&A 朝鮮人「慰安婦」と植民地支配責任 —— あなたの疑問に答えます』御茶の水書房 2015 年

日本軍「慰安婦」問題に関する様々な疑問に答える入門書。特に朝鮮半島を中心に解説されたのがブックレットの 1 と 3 です。

■山室信一『日露戦争の世紀—連鎖視点から見る日本と世界—』岩波新書 2005 年

この本のキーワードは「連鎖」です。日露戦争に至る 50 年と日露戦争後の 50 年という 100 年、そして日露戦争に始まり「戦争と革命の世紀」と呼ばれた 20 世紀の 100 年を、「連鎖視点」で捉えた本書は、朝鮮が日本の植民地とされた時代の背景を、世界史的な繋がりの中で解き明かしてくれます。

■姜在彦『日本による朝鮮支配の 40 年』朝日文庫 1992 年

日本による統監政治が始まった 1906 年から朝鮮が解放される 1945 年までの期間、つまり、日本が日露戦争に勝利してから太平洋戦争に敗北するまでの期間に、朝鮮で何が起きたのか、コンパクトに分かりやすく解説した書です。

■韓洪九著、高崎宗司訳『韓洪九の韓国現代史 韓国とはどういう国か』平凡社 2003 年
『韓洪九の韓国現代史 (2) 負の歴史から何を学ぶのか』平凡社 2005 年

韓国の時事週刊誌『ハンギョレ 21』に連載された歴史コラムをまとめたもので、韓国では既に4巻まで出版されています。コラムをまとめたものですから、「現代史」とは言っても、歴史を時系列に解説したものではありません。ベトナム戦争に参戦した韓国軍によるベトナム良民虐殺、在韓中国人に対する差別事件、左右対立の政治史など、韓国現代史のタブーに挑み、鋭く、そして読みやすく展開されていきます。韓国民主化運動世代の優れた歴史家の視点に是非、触れてみてください。まだ日本語に訳出されていない3巻、4巻は原語で読むことを目標にしたらいいのではないのでしょうか。

■文京洙『韓国現代史』岩波新書 2005 年

こちらは韓国の解放後 60 年を鳥瞰した歴史書といえます。韓洪九氏の著書と合わせ読めば、韓国現代史への理解が深まるはずですが、抑制のきいた語り口ですが、この書からも著者の視点が読み取れるはずですが。

■伊藤亜人、梶村秀樹、高崎宗司、木村益夫、武田幸男『朝鮮を知る辞典』平凡社 2000 年
(増補版)

初版は 1986 年に出版されています。朝鮮の政治、社会、文化、歴史などあらゆる分野にわたる事柄を五十音順に項目を並べて解説しているので、分からないことが出てきた時のお助け本として役立ちます。